

取得時効ハ常ニ人ノ要為ヨリ生ズルモノナリ  
然レトモ時効ハ未タ権索ヲ組成スルモノニ非  
ラズ惟時効ニ由テ從來已ニ權利ノ存在スルニ  
トテ推定セシムルニ過キズ即チ時効ハ法律上  
ノ推定ニ由テ權利ヲ證明スルノ方法タルニ過  
キカ几ナリ  
地役ノ事項ニ関シテモ利益權及ビ所有權ノ事  
項ニ関スルト均シク時効ヲ許ス可キコト当然  
ナリ然レトモ立法者ハ地役ガ継続ニシテ且ツ  
表見ノ性質ヲ有スルトキニ限ラサレバ時効ヲ

許スコトナシ蓋シ時効ノ基礎トスル所且ツ其  
 正当ナル所以ハ一ニ占有ニ在リ即チ接利ヲ有  
 セリト主張スルモノガ真ニ之ヲ有スル如ク行  
 使シテ多少ノ時効ヲ経過シタルノ事實ニ在リ  
 然レニ所有權ノ時効ニ冥シテハ占有カ種々ノ  
 性質ヲ備フルコトヲ要シ就中継続ニシテ且ツ  
 公然ノ性質ヲ備フルコトヲ必要トス本条ノ場  
 合ニ於テモ亦法律ハ此二個ノ条件ニ重キヲ置  
 キタルノニ因ヨリ所有權又ハ用益權ノ占有ノ  
 場合ニ於テハ其継続ノ性質ハ占有者ノ處為ノ

場合ニ於テハ其継続ノ性質ハ占有者ノ要為ノ

間断アルニ由テ妨ゲラル、モノニ非ラズ所有  
 者又ハ用益者トシテ一個ノ物ヲ占有スルモノ  
 ハ間断ナク耕作種藝收穫ヲ為シ得ベキニ非ラ  
 る。又間断ナク其土地ニ散步シ若クハ其物ヲ占  
 領スルニ能ハズ故ニ其為ス所ノ要為ノ全体  
 ニ於テ觀察ヲ為シ恰モ真正ナル所有者又ハ真  
 正ナル用益者ノ為ス所ト異ナルコトナク少シ  
 モ不規則ナラサル場合ニ於テハ其占有ハ全ク  
 継続ノモノナリトスルニ足ル公法ノ性質ニ実  
 ニテハ其要為ガ外部ヨリ看入ニトテ得ベク從

ツテ時効ノ爲ニ不利益ヲ蒙ムラシトスルモノ  
カ此占有ヲ費知シ其適当ト信スル場合ニ於テ  
時効ノ成就ヲ妨カシコトヲ得心キトキハ充分  
ニ法律上ノ要件ヲ備ヘタルモノトス

地役ノ場合ニ於テハ法律ノ必要トスル所右ニ  
掲グル所ニ止マラズ継続ノ性質ハ絶對完全ナ  
ルコトヲ要ス而シテ地役ノ行使が一瞬間ト多ト  
モ尚断トキコトヲ要ス而シテ前ニ注意シタル  
如ク人ノ要爲ハ其種類ノ何タルヲ尚ハスル必ズ  
多少ノ尚断アリモノナリガ故ニ人ノ要爲ヲ要

多少ノ間断アリモノナリガ故ニ人ノ要ヲ要

セズシテ自カラ行使ヲ受クル地役ニ非ラサレ  
バ時効ヲ成就セシムル為ニ充テナリ継続ノ性  
質ヲ有スル地役ナラザルナリ其他ノ場合ニ於  
テハ例令ハ通行ノ地役ノ如ク多少隔リタル時  
期ニ経テ之ヲ行使スルニ止マリ遂ツテ承役地  
ノ所有者ハ必ズヤ他人ガ通行ヲ為スニトテ着  
目ニタルニ過キズトノ理由ヲ以テ之ヲ排斥ス  
可キナリ

又公然ノ性質ニ冥シテモ之法者ガ地役ノ時効  
ノ場合ニ於テ必要トスル所ハ所有権ノ時効ノ

場合ニ比シテ甚カ大ナリトス即チ地役ノ継続  
ニ又ル行使ガ外見ノ工作又ハ形跡ニ由テ顕露  
スル場合ナルコトヲ要セリ(第ニ百七十三条)蓋  
シ外見ノ工作又ハ形跡ニ由テ顕露スルトキハ  
承役地ノ所有者ハ容易ニ之ヲ発見スルコトヲ  
得心ヲ得ツテ若シ其地役ガ不法ノモノナルト  
キハ直チニ是レニ對シテ異議ヲ告グコトヲ急  
ムラサル可ク又然ラズシテ時節ヲ成就ニ必要  
ナル時ノ間何等ノ異議ヲモ告ガスル場合ニ於  
テハ承役地ノ所有者ハ地役ヲ承認シ又ルモノ

テハ承役地ノ所有者ハ地役ヲ承認シタルモノ

ト推定スルコト容易ナリ可キナリ  
立法者ハ本条ノ場合ニ於テ間接ニ取得時効ノ  
成就ニ必要ナル旨有ノ条件ニ実スル一般ノ規  
定ヲ援用セリ此故ニ取得時効ヲ地役ニ適用セ  
ントスルニハ地役ノ行使が客假ノモノニ非ラ  
ズ又強暴ニ出デカレトテ必要トスルハ勿論  
ナリ又正権原ノ有無及ヒ悪意ト善意トニ実ニ  
ル區別ニ付テモ同一ノ規定ヲ適用スルコトヲ  
要ス蓋シ此等ノ事情ハ時効ノ成就ニ必要ナル  
期間ヲシテ伸縮セシムルモノナリ(参考第百八

十一條及ニ第百八十二條

本条第ニ段ノ法文ハ已ニ第百二十七條ニ於  
テ示シタル一個ノ問題ヲ決定セリ即チ土地ノ  
所有者カ其土地ヨリ生じタル水ヲ自由ニ處分  
スルノ權利ヲ失ヒ而シテ隣人ヲシテ此水ヲ使  
用スルノ權利ヲ得セシム可キ時効ハ如何シテ  
成就スルモノナルヤノ問題は是レナリ本条ノ即  
文ニ仍シハ要役地ノ所有者カ自己ノ土地即チ  
低地ニ於テ工價ヲ爲シタルニトテ以テ足レリ  
トス惟其工價カ表見ノモノナルコトヲ必要ト



トス惟其工作が表見ノモノナリトヲ必要ト

先工ノミ即チ高地ノ所有者が看入ニトヲ得ル  
キ性質ノ工作ナリトヲ要スルノミ或ハ曰ク  
低地ノ所有者が其所有地ニ於テ為ス所ノ工作  
ハ高地ノ所有者が止ムルニト能ハザル所ナリ  
然レニ此工作ヲ為シタルが為ニ時効ヲ成就セ  
シムルヲ得ルモノトセバ高地ノ所有者ハ此時  
効ノ成就ヲ止ムル為メ惟従来ノ水路ヲ変更シテ  
他ニ流下セシムルノ一方法ヲ有スルニ止マレ  
是レ實ニ其当ヲ得ザルモノナリト然レトモ其  
實高地ノ所有者ハ此ノ如キ手段ヲ用フルコト

ヲ要セス併地ノ所有者ニ對シ裁判所ニ於テ異  
議ヲ爲スノ途アリ可ク且ツ三十年ヲ過キザル  
毎ニ此方法ヲ用フルトキハ常ニ時効ノ成孰ヲ  
防クコトヲ得ヤシ

第ニ百七十七條

地役が所有者ノ用方ニ依リ黙示ニテ設定セラ  
レタルモノト看做サレ、ニハ其地役が徒續ニ  
シテ且ツ表見ノモノナレトヲ必要ト爲ス  
今一個ノ設例ヲ以テ所有者ノ用方ニ依ル地役  
ノ設定ヲ説明ス可シ土地ノ所有者が其土地ニ

ノ設定ヲ遂行ス可シ土地ノ所有者が其土地ニ

建物ヲ築造シ而シテ其建物ニ窓ヲ設クルニ当  
リ建物ノ周圍ハ凡テ自己ノ所有地ナルヲ以テ  
更ニ其距離方向等ニ冥シ注意ヲ施ス又ニト十  
ク惟他人ニ侵スル隣地ト其距離丈ナルガ為メ  
隣人ハ是レニ對シテ法律上何等ノ故障ヲモ為  
スニト能ハサリシ場合ヲ假想ス可シ此ノ如キ  
場合ニ於テ建物ノ所有者ハ未だ觀望ノ地役権  
ヲ行使シタルモノト認フコトヲ得ズ何トナレ  
バ地役権ハ所有権他人ニ屬スルモノ、上ニノ  
ニ存シ得ルキ所ノ權利ニシテ自己ノ所有物上

ニ地役権ナレモノ有リ得ハカラザシムナリ然  
ルニ後日ニ至リ其所有者ガ建物ヲ他人ニ賣却  
シ又ハ建物ニ接込シタル土地ヲ賣却シ而シテ  
此契約ノ当時建物ノ窓ヲ閉塞セザリシノミナ  
ラズ賣却ノ後建物ヲ閉塞ス可キコトノ要約ヲ  
モ告ササルコト有ルヲ得ハシ此場合ニ於テ建  
物ノ所有者ト是レニ接スル土地ノ所有者トハ  
最早同一ナラシムルニ依リ前ニ述ベタル理論ニ  
從ハバ地役権成立シ得ハキ事情存スルモノナ  
リ然レニ一方ニ於テ此ノ如キ状態存シ而シテ

り然しニ一方ニ於テ此ノ如キ状態存シ而シテ

他ノ一方ニ於テ当事者が建物ノ窓ヲ閉塞セズ  
又閉塞スルニトノ約束ヲ為サカリシハ總會其  
意思タルヤ明示ノモノニ非ラズシテ黙示ニ過  
カズト爲トモ仍中現存ノ形状ヲ維持スルニ在  
リシコト明カナリ而シテ其現存ノ形状ヲ維持  
スルトキハ建物ノ所有者ハ直キニ隣接セル他  
人ノ土地ニ法律上ノ距離ヲ存セズシテ窓ヲ設  
クルコトヲ許シタルモノニシテ將來ニ向ヒ真  
正ナル地役タル可キモノナリ故ニ此場合ニ於  
テハ当事者ノ黙示ノ右意ニ由テ地役施設宜セ

ラシタニモノト謂フヲ以テ正破ナリトス  
右ニ掲ケタニ設例ニ在ツテハ工作物ヲ設ケタ  
ル当時其存スル**土地**ト是レニ接スル土地トが  
一個ニシテ一人ニ属シ而シテ後分離シタルコ  
トヲ假想セリ然レトモ其事情甚必相類シテ少  
シク趣キヲ異ニスルコト有ルヲ得心シ即ち当  
初分離シタル二個ノ土地アリテ二人ノ所有者  
ニ属シ一個ノ土地ニハ建物存在シタルコト有  
ル可シ此二個ノ土地が後ニ至リ同一ノ人所  
有ト为リ而シテ新父ニ其建物ニ窓ヲ開キ更ニ

有ト爲リ而シテ新又ニ其建物ニ窓ヲ附キ更ニ

他日ニ至ツテ再ビ建物ノ存スル土地ト他ノ土  
地ト異ナリ又ル人ノ所有ト爲ル場合アル可シ  
又二個ノ土地が未だ一人ノ手ニ歸セザル以前  
ニ於テ建物ニ窓ヲ設ケ又ルモ其窓ハ法律ノ定  
メタル距離ニ突スル条件ニ合ヤザリシ爲メ不  
法ノモノトシテ閉塞セシメラシ他日兩個ノ土  
地が一人ニ歸スルニ至リ最早法律上ノ距離ヲ  
守ルノ必要ナキニ依リ再ビ其窓ヲ復旧セシコ  
ト有ル可シ此場合ニ於テモ後其土地が更ニ分  
離シテ二人ニ属スルニ至リ又ルトキハ恰モ新

又ニ窓ヲ設ケテ後土地ノ分離ヲ求メシタル場  
合ト同一ナル可シ或ハ二箇ノ土地ガ一人ノ所  
有トナル以前ニ於テ隣地ニ對スル建物ノ觀望  
ガ法律上有効ナル地役トシテ設定セラレタル  
モ其地役ハ承役地ト要役地ト一人ノ手ニ併合  
シタルガメ第四款ニ於テ掲ケル如ク混同ト名  
クル原因ニ依リ消滅シ更ニ其土地二人ニ分屬  
スルニ至ルコト有ル可シ此場合ニ於テモ亦一  
方ニ於テハ土地ノ状況更ニ變ズルニトナキノ  
ミナラズ仍ホ契約ニ由テ此形狀ヲ變更セシム



三十一  
仍ホ契約ニ由テ此形狀ヲ変更セシム

可キコトヲ約セサルトキハ竟テ設定セラレタ

ル地役ハ再ビ生ズ可キモノナリトス

又他ノ点ヨリ觀察スルニ前段ニ掲ケタル設例

ニ在ツテハ二個ノ土地ノ所有者カ其一ヲ自己

ニ存留シテ他ノ一ヲ他人ニ譲渡シタルコトヲ

假想シ而シテ其譲渡シタル土地ハ承役地ニ当

ル可キモノナルヤ將タ要役地ニ当ル可キモノ

ナルヤハ之ヲ區別スルコトナシ然レトモ此ノ

如ク一個ヲ譲渡シテ一個ヲ存留シタルモノト

假定スルコトナク仍ホ二個ノ土地ヲ同時ニ二

個ノ要ナリ又ル人ニ譲渡シタル場合ヲ想像ス  
ルコトヲ得ベシ此場合ニ於テモ其決定ニ至テ  
ハ更ニ要ナルコトナシ凡テ本条ニ掲ゲタル所  
有者ノ用方ニ由テ地役ヲ設定シタルモノト看  
做ス可キナリ

第百七十八条

前数条ニ於テ説明スル如ク地役ノ設定ニ関ス  
ル時効及ヒ所有者ノ用方ハ其地役が継続ニシ  
テ且ツ表見ノモノナル場合ニ止マルモノトス  
此故ニ継続及ビ表見ノ二個ノ性質ヲ備具セザ

此故ニ継続及ビ表見ノ二態ノ性質ヲ備具セザ

ル一ノ地役ニ適用ス可キ設定係因ハ推合意若クハ遺言又ハ権原ノ一アノノニ

并二百七十九条

本条ニ規定スル場合ハ地役ノ直接ナル設定ニ

非ラズシテ已ニ存在スル地役ヲ書面ニ由テ確

認スル場合ナリ即チ追認證書ト名クル所ノモ

ノ是レナリ此ノ如ク新又ニ地役ヲ設定スルニ

非ラズシテ已ニ地役ガ設定セラレタルコトヲ

證明スルニ止スルモノナリ故ニ一切ノ地役

ニ之ヲ適用スルコトヲ得心シ即チ其地役ガ基

實上権京ニ基キテ設定セラレタ人モノ十人ヤ  
否ヤヲ區別スルコトヲ要セズ惟實際ニ於テ地  
役ノ設定ハ凡テ権京ニ基キタ人モノ十人コト  
普通十人可シ又法律上其地役ノ性質ニ從ヒ権  
京ニ基クニ此ラガレバ設定スルコトヲ得カ  
モノ十人ヤ否ヤヲ問フコトヲ要セズ孰シノ場  
合ニ於テモ地役設定ノ直接證據ニ換フルニ  
追認證書ヲ以テスルコトヲ得心ニ此京別人次ニ  
掲カレ惟一ノ場合ニ於テ例外アルヲ看人可シ  
即チ其追認證書ハ地役が勇テ設定セラレタ人

即ち其追認證書ハ地役が専て設定セラレタリ

コトヲ認ムルモ猶も其認ムル所ノ設定方法ハ  
其地役ノ性質上適用し得ベカラザル者ナリト  
キ是レナリ此場合ニ於テハ追認證書ハ其目的  
トスル所ノ効力ヲ生ズルコト能ハサル可シ例  
令ハ地役が継続ニシテ且ツ表見ナリ性質ヲ有  
セザルモノナリ之ニ當リ時効ニ由テ設定セラレ  
タリニトテ追認之ル證書ナリトキハ其追認証  
書ハ右ニ掲ゲタル理論ニ依リ有効ナラズ又右  
ノ二個ノ性質ヲ有セザル地役ニ関シ所有者ノ  
用方ニ由テ設定セラレタルモノナリトテ追

認之ハ證書ニ至テモ同一ナリ

此追認證書ノ有益ナルコトハ地役ノ設定原由ノ何々ハ係ハラズ容易ニ之ヲ了解スルコトヲ得心シ

橋原ニ由テ地役ヲ設定シ而シテ其橋原ノ證書存在スル場合ニ於テモ時トシテ其證書ノ意義甚ク明瞭トラサレト有ル可シ此時ニ當リ當事者ハ互ニ相譲人等ノ間ニ於テ争訟ヲ起スコト莫カラシムル爲メ更ニ追認證書ヲ以テ其意義ヲ分明トラシムルコト有ル可シ孰ハ原證書

義ヲ分明ナラシムルコト有ル可シ孰ハ稟證書

滅失ニタル為メ之ヲ神ノ目的ヲ以テ新々ニ  
迄認證書ヲ作ルコトヲ得心キナリ  
時効ニ冥シテハ其已ニ成就ニタル後ニ至リ当  
事者が裁判ヲ受クルコトナク所シテ相互ノ地  
位ヲ明確ナラシムル為メ時効が公平ニ成就シ  
タルコトヲ認諾スルコト有ル可シ  
又所有者ノ用方ノ場合に於テハ当事者ハ事實  
上此原因ニ由テ地役ヲ生ゼシム可キ情況ノ特  
ニ存在シタルコトヲ明カナラシムル為メ之ヲ  
告グルコト有ル可シ

追認證書ハ独り本条ノ場合ニ於テノニ其用ヲ  
為スモノニ非ラズ其他多クノ場合ニ於テ適用  
ヲ看入コト有ル可シト多トモ此等ハ凡テ證據  
編ノ規定ニ付テ説明ヲ為ス可キナリ  
第三款 地役ノ効力

第二百八十条

権利ヲ令ツテ主々人権利及ビ從々人権利ト爲  
スコトハ已ニ第二條及ビ第十五條ニ於テ之ヲ  
示セリ且ツ地役ハ要役地所有権ノ從々人権利  
トシテ之トモ亦前條ニ於テ屢々之ヲ述ベタリ然



又ハユトモ市前段ニ於テ屢々之ヲ述ベタリ也

レトモ地役ハ他ノ經々ハ權利ト異ナリテ格別  
十八性質ヲ有スルモノナリ而シテ地役ハ一方ニ  
於テ經々ハ權利又ハト同時ニ他ノ一方ニ於テ  
ハ主々ハ權利ニシテ地役自カラ其附屬トシテ  
經々ハ權利ヲ有スルコトヲ得ベク此經々ハ權  
利ハ地役ヲツテ後始メテ成立スルコトヲ得ベ  
ク又地役ノ為ニ存在スルコトヲ得心キナリ其  
例ヲ尋ゲテ之ヲ述ベンニ他人ノ土地ニ於テ水  
ヲ汲ム權利ノ如キト一ノ地役權又ハコトヲ得  
ベク經々テ要役地ノ經々ハ權利又ハコトヲ得

心こト第トモ他ノ一方ヨリ親案之ルトキハ給  
水ノ権利ヲ有スルモノハ其権利ノ行使ニ必要  
ナリ通行ノ権利ヲ有スルモノニシテ此通行権  
ハ實ニ給水権ノ後々ハ権利ナリ其他人ノ土地  
ニ於テ物料ヲ採收スルコトヲ得ル地役権ノ如  
キモ至ク是レト同一ナリ然レトモ此ノ如キ場  
合ニ於ケル通行権ハ元来主々ハ地役権ノ行使  
ニ必要ナリ程度ヲ以テ限リト爲之ガ故ニ或ハ  
通行ノ可キ場處又ハ通行ス可キ時ニ実ニテ制  
限セラレ可キモノ又ハコト勿論ナリ殆布一例

限セラレ可キモノ又ハコト勿論ナリ猶ホ一例

ヲ市スニ他人ノ土地ヲ通シテ物料若クハ收獲  
ヲ運搬スル橋利ヲ有スルモノハ其運搬ニ用フ  
此車馬ニ付スル人夫ヲ以テスルノ橋利ヲ有  
ス可ク是レト同意ク運搬ヲ了スルニ後何等  
ノ物料若クハ收獲ヲ積マサル車ヲ挽キ来ルノ  
橋利ヲ有ス可シ然レドモ此ノ如キ橋利ヲ有ス  
ルモノハ運搬用ニ此ヲ用シテ單ニ其土地ヲ通  
過スルノ橋利ナキハ前ニ掲ケタルト同一ノ理  
由ニ因テ即カナリ  
理論ニ從フトキハ右ニ述ブル如シト至トモ実

際ニ於テハ承役地ノ所有者ニ於テ多少ノ看  
ヲ為スコト有ルヲ得心ニ就中相隣者間ニ於テ  
善意ナキトキハ是モ然リト為又然シトモ其間  
親密ナラズニ極利ヲ争フニ際シテハ之ヲ決  
スル所ナカレ可カラズ是レ實ニ法律ノ目的ト  
シテ規定スル所ナリ  
凡テ地役権ニハ其一部トシテ包含スル種々ノ  
極利及ビ極能アリト爲トモ仍モ是レニ実スル  
コトナク地役ノ範圍ニ実シテ当事者間ニ争訟  
ヲ生ズルコト有ル可シ此場合ニ於テ法律ハ惟

裁判所其争に決するに付キ標準トス可キ  
所ノ彙則ヲ定ムルニ止メタリ本条第一項ノ明  
文ニ於テ地役ノ設定ニ関スルニ個人原因ニ付  
テ準由ス可キ所ヲ示シ仍由時効ヨリ生ズル取  
得ノ推定ニ関スル理論ヲ適用セリ  
第一條第一項ニ據ル設定ノ場合即チ合意若クハ遺  
言ニ由テ地役ヲ設定シタル場合ニ於テハ合意  
若クハ遺言ニ関スル普通ノ解釋法ニ従フ可キ  
モノトス而已テ此合意ノ解釋ニ関スル規定ハ  
本法中別ニ相当ノ場處ニ於テ規定スル所アル

が故ニ今特ニ明文ヲ設クルコトナシ惟友ノ注  
意ヲ為ス者以テ正レリト為ス本年ハ合意ノ解  
釋ヲ為スニ當リ宜シク当事者双方ノ共通ノ意  
思如何ヲ考フ可ク徒ラニ当事者カ使用シ又ハ  
文字ノ意義ニノ拘泥ス可カラサルコト是レ  
ナリ又遺言ノ解釋ニ関シテハ裁判所ハ遺贈者  
ノ意思如何ヲ考ヘ遺言書ノ文面ニノ拘泥ス  
可カラズ其レト契約ノ場合ニ比スレハ更ニ注  
意ヲ要スル心所ナリ何トモハ契約ハ当事者双  
方カ孰レ議其年之天締結シタルモノナリト

モ遺言ハ然ラズニテ受遺者ハ意思ニ冥スルコ  
トナリトモ遺贈者ノ意思ニ基クモノナリ  
右ニ掲ゲタル解釋法ニ基クモ猶ホ判事ニ於テ  
疑ハ有ル場合ニ於テハ宜シク承役地ニ最モ不  
利益ナラサル意義ニ解釋ス可シ何トナシハ土  
地ト土地トノ間ニ於テ地役ノ關係ナク至ニ自  
由ナルニ至ルハ普通法ニシテ一個ノ土地カ他ノ  
土地ノ便宜ノ為ニ負擔ヲ有スルハ實ニ例外法  
ニ屬スルコトナリ

第ニ所有者ノ用方ニ依ル設定ノ場合ニ於テ土  
地ノ分離ノ爲ニ生じタル地役ノ範圍如何ニ関  
シテハ宜シク地役ヲ生ゼシム可キ形状ヲ生セ  
シメ又ハ維持シタル所有者ノ意思如何ヲ案ス  
テ之ヲ定ム可シ然ルニ此意思ハ其土地ノ分界  
線ニ於テ所有者ガ實際行使シタル所如何ニ由  
テ之ヲ知ルコトヲ得也又其現實ニ行使スル  
ニ至ラザリシトスルモ一切ノ状況ニ基キ所有  
者が是レニ由テ生ラセシト欲シタル目的如何ヲ  
案スルニ其範圍ヲ知ルコトヲ得也此例令ハ土地



所有者が其所有地ノ一方ニ存スル水ヲ他ノ  
一方ニ引キ是レニ由テ家用又ハ農業ノ用ヲ充  
又井戸水欲ハ水路ヲ設ケ又ハ後其土地ヲ分テ  
他人ニ讓渡シ又ハトキハ要役地ノ所有者ハ此  
水ヲ援用スル權利ヲ有スルコト明カナリトモ  
外モ仍由工業用又為ニ之ヲ使用スルコトヲ得  
井戸可也  
時効ノ場合ニ於テハ法文ニ於テ明記スル如ク  
莫隆占有ノ廣狹ヲ量リ是レニ由テ其地役ノ廣  
狹ヲ定ム可シ

立法者ハ此点ニ於テ時効ニ異シ古來慣用セル  
原則ヲ確認スルモノナリ即チ時効ハ占有ノ  
存ス人所ニ於テ成就スルモノナリ例令ハ法律  
ヲ以テ時効ノ成就ノ為ニ必要ナリト定メ又ハ  
時ノ附建物ノ所有者ガ法律上ノ距離ヲ存スル  
ニト計シテ空地ニ對シ觀望ヲ為シ得ルキ一  
個又ハ二個ノ窓ヲ有シ又ハ塔台ニ於テハ縦令  
取得時効成就ニ地役換成スルモノト推定  
セシムルニ至ルモ此推定ハ從來占有ニ及ル一  
個又ハ二個ノ窓ヲ有シ又ハ塔台ニ於テ更ニ第三

ノ窓ヲ築ルハトナリ許サズ人モナクナリ何トナレ  
ル事三ノ窓ハ未タ古有シ又ハニトナク占有十  
寸所ニ時効既就スルニト能ハサ身ハナリ是レ  
ハ内也久若シ其窓ト隣地トハ距離ガ二尺ナリ  
之場合ニ於テハ他日建物ノ崩壊ヲ失スニ當リ  
其隣地ニ接近シテ此窓ヲ設クルコトヲ得ズ  
雖令窓ノ數ニ於テ変更スルニトナク又隣地ト  
ハ距離ヲ改メハナシトスルモ建物ノ他ノ部分  
ニ之ヲ変更シ或ハ左方或ハ右方ニ窓ノ位置ヲ  
改メルコトヲ得ズ要スルニ熟シノ場合ニ於テ

其時効ハ惟占有ニ及ル利益ヲ其フルニ止マレ  
モノニ之ヲ實際行使セザル権利ハ是レしかガ  
取得セズトノ推定ヲ受テ可キモノニ此ラカ

第二章 第八十一條

台場ノ場合ニ於テハ其當事者ハ不注意ニ依リ  
又遺言ノ場合ニ於テハ遺贈者ノ不注意ニ依リ  
地役ノ行使ニ関シ充分ノ条件ヲ定メザル如キ  
ハ其屬スル可シ例令ニ通行ノ地役権ヲ設定  
スルモ其通行権ハ單ニ人ノ通行ノミヲ許スモ

又十レヤ或ハ然ラズニテ車馬ノ通行ヲ許シ又  
物料ノ運搬等ヲモ許スルノ十レヤ也カナラガ  
凡クトモ凡ク可定此場合ニ於テ裁判所ハ承役地  
及ビ要役地ノ性質如何ヲ斟酌シテ之ヲ定ム可  
也就中要役地ノ性質ニ注意セザレバ可カラズ何  
ル所レハ地役ノ廣狹其行使ノ方法ノ如キハ要  
役地ガ工業又ハ農業ニ供セラレタレバ場合ニ於  
テハ之ヲ娛樂ノ住居ニ供セラレタレバ場合ニ比  
シテ一層大ニ可キハ勿論ナレバナリ  
不連続ノ給水機ノ場合ニ於テ汲取ルコトヲ得

心キ水量ハ右ニ掲ゲタルト同一ノ區別ニ從ツ  
テ多少ノ差異アリ可シ惟此權利ヲ行使スル時  
ニ突ビテハ強クノ牽ニ晝間ニ限ル可シ但シ夜  
間ニ於テ水ヲ要スル急迫以外ノ場合ニ於テハ  
此限リニ此ヲテ人々ニト勿論ニシテ就中失火ノ  
際極如キハ其時ノ如何ヲ尚フ可キニ此ヲサレ  
他ノ要スル地ニ於テ牧畜ヲ為ス地役權ニ突ビ之  
供スル乳及得ル肉又ハ一頭支五ニ頭ノ牛若クハ

洋又布之此止マリ或ハ耕作若クハ運搬用  
又為以一頭若クハ二頭ノ牛ヲ有之ルニ止マハ  
如牛場在テ於テハ縦合其所有者カ盛ニ牧畜  
物業又為又至リタルトキトモ裁判所ハ  
是レガ為テ畜群ヲ他人ノ土地ニ於テ飼養スル  
ニトマシテ又可カラズ然レドモ若シ在来ノ牛羊  
等物生シタル子又為ニ教頭ヲ増加シタル如キ  
場在テ於テハ之ヲ隣地ニ於テ飼養スルコトヲ  
許スル故テ地役権ノ程度ヲ超エ又人モノト爲  
ルコト能ハスル可シ

物料ヲ採取スル權利ニ関シテハ其物料ノ土砂  
ナルト本石ナルトニ係ハラズ分量ノ尙餘ハ最  
モ重要ノモノナル可シ此点ニ関シテモ常ニ地  
役設定ノ土地ニ於テハ要役地ノ情况如何ニ從  
ツテ之ヲ定ムルニトテ要ス例ヲ擧ゲテ之ヲ述  
ベルニ地役設定ノ當時要役地ガ社會ニ於テ上  
流ノ地位ヲ有スル人ニ屬シタリト假定ス可シ  
此場合ニ於テ設定シタル物料採取ノ權利ハ必  
ズ此ノ要スル人ノ用ニ供セラレ、要役地ノ便  
益ヲ爲シ設定セラルルモノナル可シ故ニ或



ハ庭園ニ使用スル爲メ砂ヲ取リ或ハ牆壁ノ修  
繕ノ爲メ石材ヲ取リ又樹木ノ支持ノ爲メ竹木  
ヲ採伐スルコト其目的ナリ可ク或ハ場合ニ於  
テハ燈燵用等ノ爲メ木ヲ採ルコト亦人可シト  
爲トモ是レ實ニ其極度ニシテ更ニ其上ニ出ツ  
ルコト莫クハ可シ建物ノ修繕又ハ再築等ノ爲  
ニ必要ナル材木ヲ得ルコトヲ目的トシテ此地  
役権ヲ設定シタルモノト謂フコトヲ得ズ此故  
ニ他凡ニ至リ要役地が譲渡セラレテ指物師又  
ハ煉瓦製造人ノ有ニ歸スルコト亦人モ其工業

用ニ必要ナル土砂竹木等ヲ採收スルハ地役権  
ノ限ヲ超エタルモノト認ハサレテ得ズ  
是レニ及ビテ承役地ハ要役地ノ用方ノ変更ニ  
依リ利益ヲ受ケ即チ負担ヲ減スルコト有ルヲ  
得ルニ例令ハ当初前ニ述べタル指物師又ハ煉  
瓦製造人ノ所有ノ時地役権ヲ設定シ他日其要  
役地ガ此ノ如キ工業ヲ為サシムル官吏等ノ所有  
ニ帰シタルトキハ要役地ノ所有者ハ前所有者  
ト同一ナル介量ヲ採取スルニシテ能ハサレ可シ  
何レトモ此場合ニ於テハ要役地ノ為ニ必要

ナレモノニ此ヲナレテ採收ヲ許ストキハ  
要役地ノ所有者ハ之ヲ他人ニ賣却ス可ク而シ  
テ地役権ハ未如此ノ如キ権利ヲ失フルモノニ  
此ヲサレドナリ

右ニ掲グル所ノニトト凡テ解釋ニ実スル原則  
ニシテ本条事項ハ更ニ此等ノ点ヲ明クナラシ  
ムルモノナリ第一裁判所ハ承役地及ヒ要役地  
ノ相互ノ需用ヲ斟酌スルコトヲ要ス即チ前條  
ニ説明シタル所ノ外法令要役地ノ需用が甚ク  
大ナリトスルモ是しか否ニ承役地ノ所有者ヲ

之テ自己ノ用ヲ充テ又ノ権利ヲ喪失セシムル  
コトナキヲ要スルノ意ヲ明カニシタルモノナ  
リ茅ニ地役ノ行使ニ関シ当事者ノ間ニ争ヒヲ  
生シタル場合ニ於テハ必ズ其以前ニ於テハ行  
使ノ実績ヲ照査スルトキハ是レニ依リ一方ノ  
要為ノ濫奪ナラズトシテ又見エタルコト容易ナ  
可ク或ハ然ラズトスルモ從來ノ行使が多少ノ  
変更ヲ要スルモノナリトスルモ仍ホ当事者ヲ  
之テ充テノ満足ヲ得セシムルコトヲ得心シ  
茅二百八十二条